

公益社団法人 日本水産学会  
令和3年度第3回理事会議事録

1 開催された日時 令和3年5月10日(月)18時30分～19時34分

2 開催された場所 国立大学法人東京海洋大学品川キャンパス  
白鷹館多目的スペース(東京都港区港南4-5-7)

3 理事総数及び定足数

総数 17名, 定足数 9名

4 出席理事総数 17名

(上記2の会場での出席)

金子豊二、吉崎悟朗、廣野育生、中田 薫

(Web会議システムによる出席)

潮 秀樹、八木信行、山下 洋、横山芳博、佐野元彦、越塩俊介、  
木村暢夫、落合芳博、小島隆人、平塚聖一、澤山茂樹、野田幹雄、  
大嶋雄治

5 出席監事

(Web会議システムによる出席)

杉田治男、舞田正志、野澤知世

6 出席幹事

(上記2の会場での出席)

横田賢史、團 重樹、壁谷尚樹

(Web会議システムによる出席)

小山寛喜、長阪玲子

7 オブザーバー

(Web会議システムによる出席)

清水宗敬

8 議 案

決議事項

第1号議案 「令和3年度秋季大会の業務委託業者」の件

第2号議案 「各理事の担当」の件

第3号議案 「入会承認」の件

報告事項

① 第2回理事会以降の職務執行状況

② その他確認事項

9 議事の経過及びその結果

(1) 定足数の確認等

金子会長が定足数の充足及びWeb会議用装置からなるWeb会議システムにより、出席者の音声、映像が即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同様に適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認した。続いて本会議の議事進行について説明があった。

(2) 令和3年度秋季大会の準備状況の報告

清水大会総務担当から令和3年9月13日（月）から16日（木）まで北海道大学函館キャンパスにて開催予定の令和3年度秋季大会についての報告があった。本件について以下の質疑があった。

吉崎理事「開催が難しい状況になったときは、中止も含めて冷静にご判断頂きたい。」

清水大会総務担当「承知した。」

金子会長「開催の最終的な判断は北海道支部が行うのか。あるいは、理事会が最終的に判断するということになるのか。」

清水大会総務担当「こちらで判断した内容を理事会に承認してもらう形でよいか。」

木村理事「7月末の時点で状況を総合的に考え、開催の可否を判断した後、理事会に伺いを立てたい。」

金子会長「開催の可否については、北海道大学あるいは北海道支部の意見を尊重し、最終的な判断は理事会が行いたい。ただし、最終的な判断のためだけに理事会を招集することはせず、事後承諾の形式で良いのではないか。」

木村理事「状況によっては8月に入ってから判断になる可能性もあるため、理事会での事後承諾は有難い提案である。」

金子会長「承知した。中止の可能性も含め事前に告知しているため、開催の可否は適切な時期に判断すれば良いと考える。」

舞田監事「本日の理事会の決議として、開催の決定は支部の判断を尊重するというところで如何か。」

金子会長「その形式が適切であると考えている。中止も可能であるので、宜しくお願いしたい。」

木村理事「中止も含めて判断したい。」

### (3) 議案の審議状況及び議決結果等

定款の規定に基づき、金子会長が議長となり、本会議の成立及びWeb会議システムを用いて開催する旨宣言し、議案の審議に移った。

#### (決議事項)

##### 第1号議案 「令和3年度秋季大会の業務委託業者」の件

清水大会総務担当から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。開催の決定は支部の判断を尊重することとした。

本件について以下の質疑があった。

金子会長「トーヨー企画が関与せずとも成り立つシステムなのか。」

清水大会総務担当「そうである。」

金子会長「見積りの金額が安すぎるのではないか。しかし、この金額で可能であれば非常に良いことである。」

清水大会総務担当「秋季大会であるため、規模が小さいことが要因の一つと考える。また要旨集の纏め作業を入れていないことも要因であろう。」

金子会長「過去に開催した大会の見積り金額は、春季大会で 500 万円、秋季大会で 200 万円から 300 万円である。オンラインの場合は高額から低額まであるだろう。可能ならば低額が良い。見積りの金額で試して頂きたい。この金額で問題なければ良いことである。」

木村理事「当初はより低額から始めたが、先生方の負担も考慮して今回の金額となった。最も妥当な金額で委託可能な業者を探し、このような見積りとなった。また、参加費の減額も含めたスリム化した大会運営を議論した結果でもある。」

金子会長「寄附は期待できないため、スリム化した運営方針は良いことである。」

木村理事「大会が中止になる可能性もあるため、企業への寄附は依頼できないが、依頼可能な数件については寄附のお願いをした。従来通りの金額を集めることは不可能なため、大会費で集めることが可能な金額の範囲内での企画を行った次第である。」

佐野理事「春季大会では協賛金や展示の各企業への案内などは業者が行っていたため、リストを貰えるかもしれない。」

吉崎理事「寄附等は難しい状況にあるが、リストが必要であるのならば業者に打診することも可能かも知れない。」

金子会長「春季大会の協賛リストが必要であるのならば申し出て欲しい。」

八木理事「大会が中止になった場合も全額支払うのか。」

木村理事「参加費は全額支払うことになる。返金には応じない。」

八木理事「大会が中止になった場合は、クレジットカードの手数料は不要となるのか。」

清水大会総務担当「クレジットカードで手続きを行った時点で料金が発生しているため、手数料も必要になると考える。先ほどの八木理事からの質問であるが、大会が中止となった場合に委託業者に全額支払うのかという意味であったか。」

八木理事「委託業者に全額支払うのかという意図であった。」

清水大会総務担当「この件に関しては未確認であるため、確認を行う。」

舞田監事「今回は相見積りがないということであるが、過去の見積りと委託業務内容を含めて比較し、従来より低額であることを根拠に委託業者を決定したとすれば良いのではないか。」

金子会長「見積り決定の根拠が説明できることは重要である。」

清水大会総務担当「過去の見積りは手元にないが、如何すればよいか。」

金子会長「そちらで用意する必要はないので、引き続き宜しく願いしたい。」

## 第 2 号議案 「各理事担当」 の件

吉崎総務担当理事から、理事の職務権限規程第 7 条 1 項に基づく担当の原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で下記の通り可決した。

- ・会長 金子豊二
- ・副会長 越塩俊介, 中田 薫

会務

正

副

総務担当	廣野育生	吉崎悟朗
企画広報担当	吉崎悟朗	廣野育生
財務担当	佐野元彦	八木信行
編集担当	潮 秀樹	廣野育生
学会賞担当	山下 洋	野田幹雄
シンポジウム担当	落合芳博	山下 洋
出版担当	大嶋雄治	落合芳博
水産技術誌監修担当	中田 薫	大嶋雄治
国際交流担当	越塩俊介	中田 薫
水産教育担当	山下 洋	平塚聖一
水産政策担当	八木信行	潮 秀樹
漁業・資源管理担当	小島隆人	木村暢夫
水産利用担当	横山芳博	平塚聖一
水産増殖担当	佐野元彦	小島隆人
水圏環境担当	澤山茂樹	野田幹雄
男女共同参画担当	中田 薫	
水産学若手の会担当	潮 秀樹	吉崎悟朗
社会連携担当	横山芳博	
将来計画担当	越塩俊介	中田 薫
北海道支部，地域連携担当	木村暢夫	
東北支部，地域連携担当	落合芳博	
関東支部，地域連携担当	小島隆人	
中部支部，地域連携担当	平塚聖一	
近畿支部，地域連携担当	澤山茂樹	
中国・四国支部，地域連携担当	野田幹雄	
九州支部，地域連携担当	大嶋雄治	

・英文書籍監修委員会（特別委員会）担当 吉崎悟朗

### 第3号議案 「入会承認」の件

吉崎総務担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案の通り可決した。

（報告事項）

#### ①第2回理事会以降の職務執行状況

・会長

金子会長から、水産・海洋科学研究連絡協議会について以下の報告があった。

- 1) **Frontiers in Marine Science** 特集号の原稿募集のタイトルのなかに“East Sea (Japan Sea)”との表記がある。日本海の正式名称は **Sea of Japan** であり、East Sea は正式名称ではない。この件について水産・海洋科学研究連絡会の議長名

で異議を申し立てることが報告された。

本件について以下の質疑があった。

山下理事「日本政府が正式名称としているのは、Sea of Japan である。したがって、Japan Sea ではなく、Sea of Japan のほうが良いのではないか。」

金子会長「The は必要か。」

山下理事「日本政府は Sea of Japan としているが、The を付けることが多い。」

金子会長「この件は、議長にご判断頂く。」

山下理事「併記は認められないという認識で良いか。」

金子会長「Fisheries Science 誌などでは併記を認めておらず、Sea of Japan で統一している。われわれの主張も水産・海洋科学研究連絡会の議長の意見と一致している。」

山下理事「承知した。」

2) 令和 3 年度日本水産学会定時社員総会が無事に終了したことが報告された。

・庶務関係

吉崎担当理事から、以下の協賛について、共催、協賛、後援の取り扱いの申し合わせ 3) を適用したとの報告があった。

① Techno-Ocean 2021

主 催 テクノオーシャン・ネットワーク

協 賛 日本物理学会 他 72 団体（予定）

日 程 令和 3 年 12 月 9 日～11 日

場 所 神戸国際展示場 2 号館（兵庫県神戸市）

希 望 協賛

負担金 なし

・企画広報関係

廣野担当理事 特になし

・財務関係

八木担当理事 特になし

・編集関係

潮担当理事から、第三者からの告発による Fisheries Science 誌掲載論文の取り下げについての対応を行っていることが報告された。

・学会賞関係

山下担当理事 特になし

・シンポジウム関係

落合担当理事 特になし

・出版関係

大嶋担当理事 特になし

・水産技術誌監修関係

中田担当理事 特になし

・国際交流関係

越塩担当理事 特になし

・水産教育関係

- 山下担当理事 特になし
- ・水産政策関係
  - 八木担当理事 特になし
- ・漁業・資源管理関係
  - 小島担当理事 特になし
- ・水産利用関係
  - 横山担当理事 特になし
- ・水産増殖関係
  - 佐野担当理事 特になし
- ・水圏環境関係
  - 澤山担当理事 特になし
- ・男女共同参画関係
  - 中田担当理事 特になし
- ・水産学若手の会関係
  - 潮担当理事 特になし
- ・社会連携関係
  - 横山担当理事 特になし
- ・将来計画関係
  - 越塩担当理事 特になし
- ・北海道支部、地域連携関係
  - 木村担当理事 特になし
- ・東北支部、地域連携関係
  - 落合担当理事 特になし
- ・関東支部、地域連携関係
  - 小島担当理事から、令和4年度日本水産学会春季大会の開催もコロナの状況によって判断する必要があるため、開催の可否に関するガイドラインがあれば良いとの指摘があった。
- ・中部支部、地域連携関係
  - 平塚担当理事 特になし
- ・近畿支部、地域連携関係
  - 澤山担当理事 特になし
- ・中国・四国支部、地域連携関係
  - 野田担当理事 特になし
- ・九州支部、地域連携関係
  - 大嶋担当理事 特になし
- ・英文書籍監修委員会（特別委員会）
  - 吉崎担当理事 特になし
- ・財務検討委員会（特別委員会）
  - 八木担当理事 特になし

② その他確認事項

(1) 令和3年度定時社員総会における議決事項の確認

吉崎総務担当理事から原案がすべて承認されたことが報告された。

(2) 令和3年度理事会開催日程

吉崎総務担当理事から、次回以降の理事会開催日程についての説明があった。開催日時が未定であった理事会および総会については、以下の日程での開催が承認された。

第5回理事会	9月18日(土) 13:00から
第6回理事会	11月27日(土) 13:00から
第1回理事会	3月30日(水) 13:00から
第2回理事会	4月23日(土) 13:00から
総会	5月10日(火) 17:00から

以上をもってWeb会議システムを用いた会議は、終始異状なく議案の審議等を終了したので、19時34分、議長は閉会を宣言し、解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席した議長(代表理事)及び監事は記名押印する。

令和3年5月10日

公益社団法人 日本水産学会  
議長 会長(代表理事)

監 事

監 事

監 事